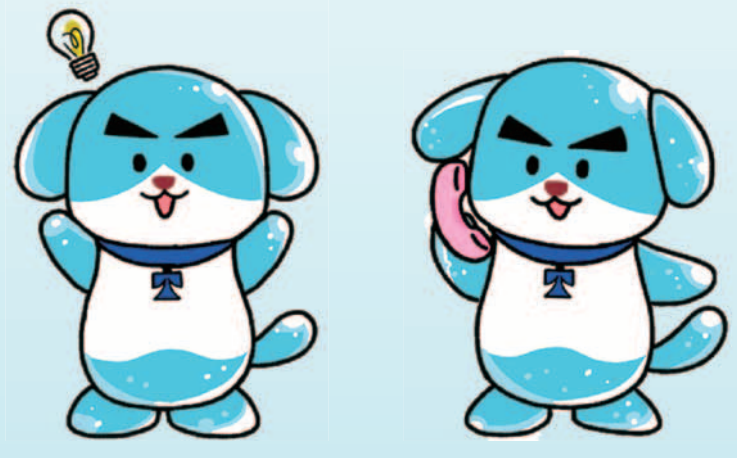
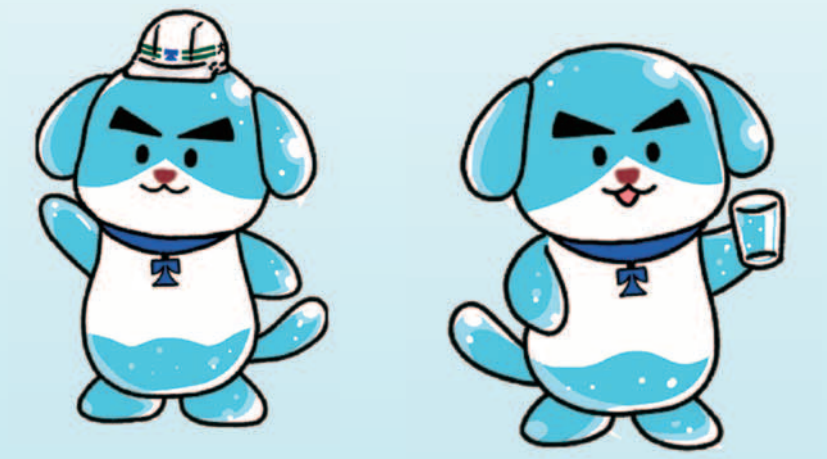




“水道事業出前講座”（しずく丸大作戦）



大和町上下水道課

1. 抱えていた課題

持続可能な水道事業を目指し、特に次世代を担う子どもたちに水への関心を深めてもらうことや、水に関する様々な施設・活動を知ってもらうことを狙いとし、こども園や児童館等に水道事業職員が直接出向き、水に関する出前講座（水の紙芝居、水のふしぎ実験、給水車の役割）を実施していた。しかしながら、見ず知らずの職員（大人）の説明や質問には、「なかなか子どもたちが寄ってきてもえず距離ができ、伝えたいことがうまく伝わらない。」ことが課題となっていた。

2. 広報活動概要

課題解決に向けて、【楽しみながら学べればどうだろうか？】と試行錯誤し「ゆるキャラ」なら子どもたちがすぐなじめるのではないかとアイデアから、令和7年度に大和町水道事業に特化したキャラクター「しずく丸」を誕生させ、着ぐるみも制作しながら出前講座に登場させた。

また、こども園等から「子どもたちは、歌やダンスが好き。」との助言をいただき、プロ野球球団の元チアリーダーで現在は球団のイベントリポーターにダンス講師の助っ人を依頼し、「しずく丸」と一緒に子どもたちにダンスを教えていただいた。

その後、ダンス講師には「大和町水道事業応援大使」を委嘱し、言葉を発しない「しずく丸」の代弁者として出前講座の紙芝居などの読み聞かせ等も行っている。

※しずく丸 特技・・・利き水百発百中 好きなもの・・・大和町の水 趣味・・・ダム廻りの散歩 走るのはちょっと苦手 泳ぎが大の得意 上下水道課職員と思っている



▲応援大使としずく丸

3. 広報活動の狙い

令和6年度までの出前講座では、説明や質問にも消極的で黙っている子どものほうが多かったが、「しずく丸」を登場させた令和7年度出前講座では、「この犬なんていうのー」、「どこからきたのー」などと職員にも話かけるようになり、子どもたちとの距離も自然と短くなっていった。

また、水についての説明には真剣に、質問には積極的に聞いたり、答えたりしてくれるようになったほか、「水が止まると困るよね！」、「水道管って、土の中にあるんだって！」などと話している子どもやダンス終了後「水っておいしいね！」、「もう一杯ちょうだい！」と話している声が聞こえるようになり、水に対する関心も徐々に大きくなった。さらに出前講座終了後には、「しずく丸」やダンス講師「水道事業応援大使」だけでなく職員にも「また、きてねー」と最高の言葉もいただいた。

その後、子どもたちがご家族に水の話を変えたことから、ご家族からも水についての理解を得られる等うれしい報告もあった。



▲以前の出前講座（職員だけ）



▲現在の出前講座（しずく丸登場）



▲しずく丸とダンス

4. PRポイント

水道事業における広報マニュアルでは、「水道は地域における共有財産であるという意識を醸成することが重要である」とされており、施設を含む共有財産を次世代に引き継いでいかなければならない。

そのため、水や水道施設の役割等の情報発信（広報）が非常に重要であり、特に、子ども世代を対象とした場合には、こちらからの一方方向の話では理解してもらうことは非常に困難である。そのため、その方法については、相違工夫が必要となってくる。広報マニュアルでは「マスコットキャラクターの活躍」や「著名人等起用によるプロモーション」が有効であるとされており、当水道事業で実施した令和7年度出前講座【こども園等3施設3回（6月～7月）・児童館4施設6回（10月～3月）】で登場した水道事業キャラクター「しずく丸」やダンス講師である「水道事業応援大使」の起用によって、子どもたちとの距離が短くなり、こちらからの情報発信（広報）を行うには非常に有効なものとなった。今後は親世代を含めたファミリー対象の出前講座を予定している。

また、この取り組みについてのPRとしては、時事通信社の協力もいただき「しずく丸」及び「水道事業応援大使」の活動について、官庁速報に掲載していただき全国自治体へ情報発信を行った。



▲たのしい出前講座